日本語教育実習事例研究

―― 次第に粗雑化していく上級段階の語句・表現の説明分析 ――

丸　山　敬　介

1. 事例と事例を採取した実習授業の概要

一般に、実習生は大変な緊張状態の中で実習に臨むが、授業が進行するにつれて少しずつ精神的な余裕が生まれ学習者や自己の指導を客観的に把握するようになる。それは1回の実習の中でも連続する複数の実習においてもいえ、不十分ながらも学習者の理解の様子を見て自らの指導技術の適否を評価・判断し、必要に応じてその軌道修正を施す。したがって、開始当初より中盤から後半にかけて客観的により適切で望ましい指導をしていくようになるのが普通である。もちろん学習者や学習項目・実習生の性格や興味の持ちようによってさまざまなケースが実際には起こるが、大局としてみれば、こうした変化は実習指導教師がそして実習生自身が普通に抱く感想であり、のみならず彼らが得る一つの経験知といってよかろう。

ところが、次にあげる2005年に民間の養成機関で採取した上級段階における精読の実習事例では、そうした過程とは逆に、開始から中盤辺りまでは語句の意味や用法を丹念に取り上げ学習者と問答をしながら適切な情報を提供しているのにもかかわらず、開始後40分を過ぎたあたりから指導項目として取り上げたことがらは学習者にとって既知であるという明確な根拠のない前提に立ちがちとなり、意味の説明も粗雑で遺漏が多く全体として単調な講義調の指導になっていく様子が観察される。妥当性を欠く指導はいろいろな形で実習授業に出現するが、初級段階では授業進行の段階に関係なく指導項目の説明のし方や練習のさせ方などの特性に関連して起こるのに対し、こうした実習後半に行くにしたがって説明が粗雑化していく現象は中上級ことに新聞記事など生の教材を使った上級段階に

おいて散見され、きわめて特徴的である。本論は、その典型的な例としてこの事例を取りあげ前半部分と後半部分とを比較することによってその実態を具体的に明らかにするとともに、それを踏まえた今後の課題を検討しようというものである。

分析の前に、分析対象とした実習授業の概要を述べておく。実習生は企業退職者で、日本語指導の経験をほとんど持っていないが、この指導を行うまでに日本語の構造的知識・日本語教育の歴史と社会的背景・教授法(実習に求められる具体的な技術・知識なども含む)などの基本的知識は学習済みで、さらに初中級段階において複数回の教壇実習を行っている。授業は、成人の外国人4名を対象にしたクラス形態授業であった。省略したりスキップしたりせず、最初の導入から最後の発展的な話し合いなどの活動まで実習生一人で通して受け持ち、実習に要した時間は75分8秒であった。

教材は、実習生自らが新聞などから800〜1000字程度の記事を選んでくることを旨としたが、本論で使われたのは『日本経済新聞』に2005年の4月から7月まで連載された現代のさまざまな労働者のあり方と働くことの意味を問いかけた特集記事のある回[1)]で、集団就職で東京に出てきてパン屋を開業し今日まで至った親とその家業を継ごうと決めた息子を通して、誇りを持って自分の仕事に向きあう個人事業主の姿を描いたものである。以下の五部構成をなす。

①集団就職の説明

②集団就職で新潟から出て来てパン屋に勤めた少年の紹介

③独立した少年とその後の発展

④高校時代遊びほうけていた息子の、家業を継ぐ意志の表明

⑤集団就職時代とは価値観が変わってしまった今日の働く意味の問いかけ

2. 指導前半部分の妥当性の分析

次のNo.1〜45は、実習開始後7分38秒から始まった上記①の指導である[2)]。

①集団就職の説明

No. T/S 7：38

1	T	1	「東京 世田谷区の桜新町」。東京に世田谷っていうところがあるね、まあ、だいたい日本の中流の、人たちが一番住んでるところですけどね。
		2	「50年前の1955年、地方の中卒者」、「中卒者」って何です？
2	S1		中学校卒業者。

3	T	1	そうですね、中学校を卒業した人ね。
		2	「を、受け入れる集団就職」。S2さん、「集団就職」ってわかります？
		3	「集団」、わかります？　集団って、わかります。
4	S2		「集団」は、みんなが集まって…。
5	T	1	そうそう。そうですね、ま、グループ。
		2	「就職」は？
6	S2		「就職」は、簡単にいえば仕事に就く。
7	T	1	そうですね、「仕事に就く」。集団で仕事に就く制度ですね。
		2	「集団就職制度を初めて町ぐるみで導入した」。「ぐるみ」ってわかりますか？　「町ぐるみ」、S4さん。
8	S4		…
9	T		(S1に向かって)　わかりますか。
10	S1		「ぬいぐるみ」の「ぐるみ」
11	T		あ、じゃないですね。(笑い) S3さん、わかります？
12	S3		なんか、集まって…。
13	T	1	「町ぐるみ」というのは、町全体ですね、「町ぐるみで」。はい、町全体がそういうことをしたというね。
		2	今度、あの、高校野球っていうのがありますね、8月に。で、みんな、応援しますね。「学校ぐるみで応援する」とかね。その市とか村とか、村ぐるみで応援する場合ですね。「ぐるみ」、全体で応援する、ね。そういうときに、「ぐるみ」というのを使いますね。
		3	でね、「集団就職」、「今から50年前、集団就職」。ちょっと、見えますか。 (集団就職の若者が出発する地方の駅、彼らを出迎える東京の駅・商店の写真、貼って説明)
		4	まあ、これが「集団就職制度」っていうものです。これが20年間、1950年から20年間。だいたい、わかっていただけましたね、どういうものかというムードがね。
14	S1		何となく、文化大革命の写真みたい。
15	T	1	だからね、日本もこういうね、これ、頭もおかっぱ頭っていいましてね。こういう時代があったんですよ。わかりました？　はい。これが、それを町ぐるみで導入したんですね。
		2	「最初は人身売買かと疑われてね」。「人身売買」。「人身売買」ってわかりますか？ S4さん、わかりますか。「人身売買」。
16	S4		なんとなく、わかります。
17	T	1	なんとなく、わかります？　ま、あのう、まあ、いわゆるね。お金を払って人を、こう、売り買いすることをいいますね。「かと疑われた」ということは、間違えられたということですからね。
		2	「人身」ていうことばは、ま、あんまり使わないんですけれども。普段よく使っていることの中ではね、「人身事故」っていうことばをよく使いますね。「人身事故」。

			S3 さん、「人身事故」って聞いたことありますか？
18	S3		聞いたことありますけど。「人身事故」…。
19	T	1	「人身事故」。事故です。（「人身事故」板書）交通事故とか電車事故とか、事故、起こしますね。ぶつかったりとか。そのときに、人がぶつかって、事故、起こす。これ、「人身事故」。バイクが、バイク、オートバイが人とぶつかっても「人身事故」。人身事故をすると、警察は非常に厳しいですよ。こういうとき、「人身事故」。「人身事故」というのは、結構、ニュースとか新聞なんかでは使います。「人身」っていうのは、これぐらいですね。ま、あんまり、あの、聞かないと思います。はい。
		2	で、「当時の商店会長で発案者」。S4 さん、「発案者」ってわかります？
20	S4		「発案者」？
21	T		ええ、「発案者」。「商店会長」、わかりますね。商店の会長さん。
22	S4		うん。
23	T		「発案」ていうのは？
24	S4		「発案」…。その、初めて、その…。
25	T	1	そうです。「案」ってアイディアですね。考えを、「発」ですから、発しますから、考えを初めて発した人ですね。この人が発案した、考えた。
		2	「菅沼元治　86 歳は振り返る」。 S2 さん、「振り返る」ってどういうこと？「振り返る」ってわかります？
26	S2		わかります。あの、一度、…。前のことを、思い出す。
27	T	1	そうですね。実際は、こう、（後ろを向いてみせる）人がこう、こうやってこう向くのが「振り返る」ですが、それを、逆に、過去のことを見るのに「振り返る」を使いますね。
		2	「新潟県高田市、現上越市の、職業安定所」。S3 さん、「職業安定所」わかりますか？
28	S3		職業を、仕事があるということ？
29	T		違います。知ってます？　S2 さん。
30	S2		職業を紹介する場所。
31	T	1	そうそう。今、「ハローワーク」っていうね、横文字なんですね。そうそう、「ハローワーク」。いわゆる、仕事を紹介してくれる所ですね。もしくは、会社の人でしたら、仕事の人をね、どこどこ、自分は何人ほしいんですけどっていって、いいに行く所ですね。
		2	その、「職業安定所に頼み込んだ末、16 人を受け入れたのが始まりだ」。この中でわかりにくいとこ、ありますか。 いいですか、だいたいわかりましたか？
		3	それならね、この中でね、「末」というのが出てきますね。「末」。「頼み込んだ末」。「末」というのはどういう意味かわかります？ S1 さん、どうですか。
32	S1		わかりません。
33	T		「何々の末」。

34	S1		結果？
35	T	1	そうですね。そうです。（「～末」板書）意味としては、いろいろした後で、とうとう最後に、まあ、結果みたいなもんですね。いろいろしたんです。ですから、その結果というような意味になるんですね。
		2	ちょっとね、例をあげましょうかね。（「いろいろ考えた末、車を買いました。」板書）はい、わかります？（板書をなぞりながら）これはね、いろいろ考えた末、車を買いました。まあ、ね、お金ないんだけれども、まあいろいろ便利だし、どうしようかなとこういろいろ考えた、結果、車を買いました。こういうとき使うんですね。「考えた末」。
		3	それからね、これは、ここが、ああ、ちょっとごめんさい。「タ」が抜けましたね。ここはあの、「タ形」が、動詞の場合、「タ形」がきますね。タ形がきてます。
		4	今度は名詞が来る場合ね。こういいます。（「粘り強い交渉の末、やっと安くしてもらいました。」板書）これはちょっと、知っておかなければ、ね。… はい、車を買ったときにね。（「交渉」指して）これ、わかります。「交渉」ってね、あのう、いろいろ、やり取りすることですね。「粘り強い交渉の末、やっと安くしてもらいました。」わかりますね。これね、こういうときに使う。ここ名詞の場合、こう、「の」が付くね、「交渉の末」。こういうときに、「末」というの、使う。
		5	これはね、「何々やった末、うまくいきました」、ね、買った、買えたのね。「末」、うまかったんですね。 うまくいかないときもある。この「末」というとき、何て使う？
36	S2		「あげく」。
37	T	1	そうですね、「あげく」。知ってますね。「あげく」。（「あげく」板書）ここは、その代わりに、「買えませんでした」。（「買えませんでした。」板書）ちょっとね、車、あれでしたね。「あげく」を使うんです。これは、いろいろやったけどうまくいかなかった。
		2	（名詞の例の板書を指しながら）こっちは、どうなりますかね。「粘り強い交渉のあげく、安くしてもらえませんでした」。いろいろやったんだけどだめだった、ということですね、だめだった。こういうとき、「末」とか「あげく」を使うんですね。はい、よろしいですか。
		3	それでは、次、いってみましょうかね。 はい、S2さん、読んでくださいますか。
38	S2		はい。（第2段落読み）
39	T	1	そうですね。ええ、「翌年の経済白書は」。
		2	これは、政府が出す経済の実態を表した文書ですね。
		3	そこに、「もはや戦後ではない」といわれた。
		4	「もはや」ってね、「今となっては既に」という意味なんですね。これをね、どういうことを指すか、ちょっとこれを見て下さい。 （国民所得のグラフ配布して戦前から高度成長期までを簡単に説明）
		5	はい、こういう意味で、「もはや戦後ではない」と、こういったわけですね。いいですか。
		6	「と、宣言」。

		7	「宣言」というのは、「宣言する」といって、政府やそんなところが、こうだということですね。
		8	「日本経済は復興期から高度成長期」、グラフにも出ていますね。
		9	「に入り、商店や工場は深刻な」。S4さん、「深刻」って知ってますか？
40	S4		ううん。「深刻」。ちょっと、今、説明できない。
41	T	1	うん、大変だというね、ひどく大変なことね。
		2	「人手不足」、「人手不足」は。S4さん、わかりますか、「人手不足」。
42	S4		人がない？
43	T	1	そうです、人の手が足りない。不足しているね。
		2	「に陥った」。S1さん、「陥った」って何ですか。
44	S1		ううんと。悪い結果になること。
45	T	1	そうですね。「陥った」っていうのはね、穴に落ち込んだいうことですね。（穴に入る図を描いて）こうね、落ちて入った。ね、「陥った」って、漢字の「落ちる」と入るでもいいですね。「陥った」ね。
		2	「集団就職は全国に拡大」。
		3	「拡大」はいいね。広がって大きくなっていくこと。
		4	で、先ほどいいましたけど、「金の卵の若い労働力は列車に揺られ、不安と希望を胸に都会に向かった」　（先の集団就職の写真を掲げて）こういう感じでね。こうやってね、不安、不安。不安ですね。心配そうな顔してますね。こういう感じです。はい。
		5	それじゃ次、S4さん、読んでもらえますか。

23：25

ここで実習生が取り上げた語句・表現とおのおのの指導の進行は、以下の通りである。

	語句・表現		取り出し(No.)		学習の応答(No.)		実習生が行った説明（No.）	
1.	「中卒者」		意味問い(1-2)	→	S1(2)	→	意味説明(和語化)(3-1)	
2.	「集団就職」	「集団」	意味問い(3-3)	→	S2(4)	→	カタカナ(5-1)	意味説明(和語化)(7-1)→写真見せて解説(13-3)
		「就職」	意味問い(5-2)	→	S2(6)	→	繰り返し(7-1)	
3.	「～ぐるみ」		意味問い(7-2)	→	S1(10)・S3(12)	→	意味説明(言い換え)(13-1)	→例(13-2)
4.	「人身売買」	「人身売買」	意味問い(15-2)	→	S2(16)	→	意味説明(和語化)(17-1)	
		「人身」	用例問い(17-2)	→	S3(18)	→	用例説明(19-1)	
5.	「発案者」	「発案」	意味問い(23)	→	S4(24)	→	意味説明(和語化)(25-1)	
		「案/発」						
6.	「振り返る」		意味問い(25-2)	→	S2(26)	→	意味説明(27-1)	
7.	「職業安定所」		意味問い(27-2)	→	S2(28)・S2(30)	→	意味説明(31-1)	
8.	「～末」	「～末」	意味問い(31-3)	→	S1(32)・S1(34)	→	意味説明(35-1)	→例文提示(35-2)→動詞(35-3)・名詞(35-4)
		「～あげく」	類義語問い(35-5)	→	S2(36)	→	動詞(37-1)・名詞(37-2)	
9.	「経済白書」		本文読み上げ(39-1)		→		意味説明(39-2)	
10.	「もはや」		本文読み上げ(39-3)		→		意味・文脈的意味(39-4)	
11.	「宣言」		本文読み上げ(39-6)		→		意味説明(和語化)(39-7)	
12.	「深刻」		意味問い(39-9)	→	S4(40)	→	意味説明(言い換え)(41-1)	
13.	「人手不足」		意味問い(41-2)	→	S3(42)	→	意味説明(言い換え)(43-1)	
14.	「陥った」		意味問い(43-2)	→	S1(44)	→	意味説明(図示)(45-1)	
15.	「拡大」		本文読み上げ(45-2)		→		意味説明(和語化)(45-3)	

①で取り上げた語句・表現は計15でこれらになされた説明は主に意味の解説であるが、その方法は、おおむね、三つのタイプに分けられる。

一つは語句単位で意味のみを与えるもので、まず学習者にその語句の意味を問いかけ学習者の応答を得、その応答を受けて説明を行うという基本パターンを持っている。次の表に見るように前記8. と10. を除くものがそれで、最も数が多い。2番目は、そうした基本パターンを持ちながら意味のみならず例文や接続の形などまで取り上げるタイプで、8.「～末」がそれにあたる。最後に、語句の意味説明に始まってそれが発展し実習生自らが用意してきた資料に触れて内容を深く解説するタイプで、2.「集団就職」の写真を見せての発展的説明・10.「もはや」がそれにあたる。

最初のタイプを詳しくみると、実習生が用いた説明の手法はさらに次の五つに分けることができる。A. 和語化（和語を補って漢字語彙をやさしくしたもの）、b. 言い換え（別のことばで言い直したもの）、c. 解説（やさしいことばで説明したもの）、d. 視覚化（動作や図で示したもの）、e. その他、の五つである。

これに沿って説明された語句・表現を分類したのが次である。

実際に行った説明

a. 和語化	1.	「中卒者」	中学を卒業した人
	2.	「集団就職」	集団で仕事に就く制度
	4.	「人身売買」	お金を払って人を売り買いする
	5.	「発案」	考えを初めて発する
	11.	「宣言」	政府やそんなところが、こうだということ
	15.	「拡大」	広がって大きくなっていくこと
b. 言い換え	2.	「集団」	グループ
	3.	「～ぐるみ」	町全体がそういうことをした
	12.	「深刻」	ひどく大変なこと
	13.	「人手不足」	人の手が足りない
c. 解説	7.	「職業安定所」	人を紹介する所/会社の人が何人ほしいっていいに行く所
	9.	「経済白書」	政府が出す経済の実態を表した文書
d. 視覚化	6.	「振り返る」	動作
	14.	「陥った」	図示
e. その他	2.	「就職」	繰り返し　「そうですね、『仕事に就く』」。
	4.	「人身」	用例あげ

以上を見ると、11.「宣言」の表明するという意味合いが弱いこと、13.「人手」の説明がなされていないこと、9.「経済白書」の「実体を表した文書」をもう少しやさしくいったほうがわかりやすかったであろうことなどを指摘すべきかもしれないが、全体としてはこれらの手法を適宜使ってほぼ妥当な説明を与えていることがわかる。

たとえば5.「発案」の説明では、S4の「『発案』……。その、初めて、その……。」(No. 24)を受けて「そうです。『案』ってアイディアですね。考えを、『発』ですから、発しますから、考えを初めて発した人ですね。この人が発案した、考えた。」(No. 25-1)と返しているが、S4の発話の「初めて」を取り上げそれを生かす形で「考えを『発』だから、考えを初めて発した人」としたのは学習者の発話を積極的に受け入れた和語化説明で、きわめて妥当なものといってよかろう。

また、2番目の例文や接続の形などまで取り上げるタイプでは、8.「～末」の意味として「いろいろした後で、とうとう最後に」(No. 35-1)をまず与え、次いでその例文(No. 35-2)、さらに「末」に動詞と名詞が接続するときの形(No. 35-3/35-4)を押さえている。さらに、悪い結果をいうときには「あげく」を使うこととその例文(No. 37-1)、「あげく」の名詞接続の形の確認(No. 37-2)をしている。このレベルで「末」がよい結果・「あげく」が悪い結果と単純に二分化して教えるのがよいか・長い議論や検討を経た結果としては「車を買う/買わない」よりもっと適切な例があるのではないか・「粘り強い交渉」がやや難解であるといった問題点を指摘せねばならないが、これもまた、例をあげながら意味・接続・類義語に言及しているという点で、おおむね妥当な構成を持った説明といってよいものと思われる。

さらに、最後の資料を用いて内容を解説するタイプの2.「集団就職」・10.「もはや」であるが、それぞれ実際になされた説明は以下の通りである。

2.「集団就職」の説明(No. 13-3のカッコ内)：

「これ、写真ですけどね。これ、みな、そうですね。こういう、その、中学生がかばん持って、ね、こうやってみんなずっと歩いて駅まで行きますね。これ、駅です。汽車に乗るときテープ持って、わあ、さよならっていって、もう、集団就職。ま、田舎から都会へ来ますから、もうお別れなんですね、

家の人と。で、これ、やっぱり、テープ持って、さよならって振ってるわけです。そのときはね、まだ、汽車の窓は開いたんです。しかもね、これ、蒸気機関車。蒸気機関車ってわかります？　煙、スチーム。蒸気機関車の時代ですよ。これって、皆さん、50年前ですよ。

で、これがちょうど、東京だったら東京の町に着いたら、こちら側が、その、商店の社長さん。迎えに来てるんです。こちら側が、みんな、たくさん、来てる。「よろしく」って。で、こう、会社へ行きますと、社長さんが、よく来ましたねってあいさつする。で、ここにはちょっと、こう、食べ物とジュースでね。歓迎会してくださったんですね。

で、こういう人たちを、その、「金の卵」、いわれていた。非常に大切なね、貴重な人材。だから、社長さんがどうぞよろしくって、礼していらっしゃる。威張ってないでしょ。これから、一生懸命働いて下さいって、こういうことをいってらっしゃる。」

10.「もはや」の説明（No. 39-4 のカッコ内）：

「これをね、これの上のね、グラフを見て下さい。（グラフなぞりながら）このグラフの上の方にね、ここにグラフ、ありますね。ずっと見て下さいね。こっちからここまではね、戦前、太平洋戦争の前なんですね。前の経済のデータ。これ、国民一人当たりの所得、ね。国民一人当たり、ま、稼ぐ値段ね。これだけだったんです、ずうと。で、ここで切れてますね。これは、ちょっと、統計局の書き方が、ここデータ、二つ書いてありますけど、違うんで切れてますけど。こっちから後ろが戦争の後なんですね。

ここ見ていただくと、わかりますね。1955年というのは1950と1960の真ん中ですね。真ん中をまっすぐ、ちょっとこっち見ていただくと、ここ、空けといたんですけど、ここにこう線が入っていますね。これと横とを見ていただくとね、同じ数字になりましたね。ということは、戦争が終わって大変だったけど、ここで、ほぼ大体もとに戻ったと。だから、もう戦後ではないんだと。これからは拡大だと、頑張れと、まあ、こういうんですね。実際、これ、頑張ったんですね。高度成長期。グラフのデータの数、ものすごいですから。これ、ちょっと、小さくなってますけど、実際、ここもね、グラフ

の取り方では大きくなりますね。」

2.「集団就職」の説明では3枚の写真を用意し、故郷を出る中卒の少年少女・東京の駅で出迎える商店側の人間・商店で歓迎している従業員の様子を説明し、最後に「金の卵」を出している。No.14にS1の「何となく、文化大革命の写真みたい。」との発言があるが、現在、学習者が日常目にし耳にする日本とはまったく別の光景がこれらの写真とその解説によって明らかにされている。この授業における「集団就職」の説明としては十分といってよかろう。

また、10.「もはや」の説明であるが、これは集団就職と違ってことばそのものの説明としてなされたものである。したがって、まず「『もはや』ってね、「今となっては既に」という意味なんですね。」(No.39-4) と大まかにいっておき、さらに「これをね、どういうことを指すか、ちょっとこれを見て下さい。」といって国民所得のグラフを参照している。そこで敗戦直後に落ち込んだ国民所得が1955年に戦前のレベルに戻ったことを明らかにした上で、「こういう意味で、『もはや戦後ではない』と、こういったわけですね。」(No.39-5) としめくくっている。すなわち、No.39-4が語句の意味、No.39-5がその文脈上の意味となっている。これも、グラフを用いた十分な説明であろう。

3. 指導後半部分の講義調化した指導の分析

3-1. 学習者への問いかけの欠如

こうして見ると、No.1〜45の①集団就職の説明はではおのおの実習生なりの工夫が見られ、その結果、小さな課題はいくつか指摘すべきかもしれないがおおむね妥当な意味の説明がなされているといえる。ところがそれが、④「息子の意志表明」、⑤「今日の働く意味の問いかけ」の部分から講義調に変化する。

開始後42分から約10分間の指導を取り出してみると、この間に取り上げられた語句・表現は以下の八つで、その説明は、前半の指導で指摘した最初のタイプ、語句単位で意味のみを与える性格のものである。

このタイプの説明では、まず学習者にその語句の意味を問いかけ、その応答を受けて説明を行うという基本パターンを持っているとした。ところが、ここでは、八つのうち問いかけたもの「○」3、問いかけていないもの「×」5である。す

		語句・表現	問いかけ	実習生が行った説明	
④	16.	「後を継ぐ」	○	言い換え	「後」を「仕事」に言い換え
	17.	「混ぜ返す」	×	解説	「冗談をいって話を混乱させる」
	18.	「ほうける」	×	言い換え	「夢中になる」
	19.	「意識」	×	言い換え	「意欲」「考え」
	20.	「芽生える」	×	解説	「考えが出てくる」
	21.	「修業する」	○	解説	「店員として働く」　お寺の修行
	22.	「店を構える」	×	視覚化	中腰で手を構え足を踏ん張るジェスチャー
⑤	23.	「価値観」	○	解説	「価値」= 値、「観」= 考え方

なわち、この基本パターンを踏襲しておらず、実習生が説明の主導権を握っている。5.「発案」の説明にあったような、学習者の発話を積極的に受け入れそれをもとに意味の説明を組み立てていこうという姿勢は希薄で、結果的に一方的な説明になっている。事実、後述するように、16.「後を継ぐ」では、S1の「仕事を、続ける。」という発話を取り上げていない。21.「修業する」では、S2が言いよどんでしまい応答が得られていない。23.「価値観」では、この中で唯一学習者の発話を取り上げているが、説明が十分な問答を形作っていない。

3-2. 個々の語句・表現の説明の分析

次におのおのの説明の手法を分析しておく。

16.「後を継ぐ」の説明　42：48

1	T	S1さん、「後を継ぐ」というのはわかります？
2	S1	うん、はい。仕事を、…。
3	T	そうそう。
4	S1	仕事を、続ける。
5	T	そうそうそう。お父さんの仕事を継ぐのを、「後を継ぐ」というのね。はい。

まず16.「後を継ぐ」で明確にすべきは「継ぐ」の意味と「後」とは何の後かを確認した上での「後を継ぐ」の意味だと思われるが、S1の「仕事を、続ける」(No.4) は厳密にいえば「後」の部分が不明確でそのために実習生はNo.5で「お父さんの仕事を」と補ったものと考えられる。けれども、S1が考えた「続け

る」は取り上げず「お父さんの仕事を継ぐ」として、結局、「継ぐ」は説明されていない。本来ならば、「お父さんの仕事を続ける」とすべきであったろう。

17.「混ぜ返す」の説明 43：25

1	T	1	「混ぜ返そうとして涙が」。「混ぜ返す」というのは、どういういうことかわります？
		2	これはね、あのう、冗談をいってね話を混乱させることをいうんです。混ぜ返す、混ぜてひっくり返すんですね。「混ぜる」、その通り、混ぜ返す。その話を混ぜて返すっていうことは、ま、そのなんですね、混乱させてしまうんですね。
		3	息子さんはね、息子はですね、そのう、パン屋になるっていってるのにね、お父さんはですね、そのう会社員がサラリーマンのほうがいいんじゃないですかっていってるわけ、せっかく息子がいってるのにね、こう、ひっくり返してますね。これを、「混ぜ返す」。わかりますか。ね。そういいますね。
		4	けれども、そういっといて、涙で声が詰まったんですよ。「涙」、わかるね。「声が詰まる」というのは、声が出なくね、そのとき、涙がね。いっておきながら涙で声が、矛盾してますけどね。はい。

17.「混ぜ返す」は、高校時代ろくに勉強もしなかった息子に同じパン屋をやりたいと告げられ、うれし涙に詰まりながらも父は「休みのある会社員のほうがいいんじゃないのか。」とやり返す、という文脈で使われている。この記事の中の最も感動的な一節である。そこで実習生は、「混ぜ返す」の意味を「冗談をいって話を混乱させること」(No.1-2) と解説している。

けれども、この解説は辞書的な説明としては誤りではなかろうが、学習者には文脈上かなり難しいものではないか。No.1-3 の「サラリーマンのほうがいいんじゃないですか」とした父の発言は冗談とは取りにくい。息子に対する将来設計のアドバイスと取るほうが学習者の理解としては自然である。しかも、そういった父親がその後で涙を流している (No.1-4)。ここでの「混ぜ返す」は、息子の真摯な意思表明にまともに取り合わなかったことをいうものと取るのが自然である。

さらに、実習生の「混ぜてひっくり返す」「混ぜてひっくり返す ＝ 混乱させる」(No.1-2) という説明は説明になっていない。文脈上、何を混ぜるのか、「ひっくり」が何で、何をどうするのが「ひっくり返す」なのかを理解する手がかりを学習者は得ていない。それゆえ、うれしさ・意外さ・経験者ゆえの厳しさの述懐・戸惑い・逡巡・期待……、それらがないまぜになった父親の気持ちとそ

れを表すこの「混ぜ返す」の意味を、学習者は十分に理解できていないものと考えざるを得ない。

18.「ほうける」の説明 44：20

1	T	1	「高校時代には家にも帰らず遊びほうけた」。「ほうける」というのは、わかります？
		2	これはね、「夢中になる」とかね。「遊びほうける」、ま、こんなふうにしか使いませんね。「遊びに夢中になった」と、ね。

19.「意識」の説明 44：32

1	T	「意識」。「意識」いうのは、意欲とかね、考えとかね。

次に、18.「ほうける」・19.「意識」の説明はぞんざいで突き放した感がある。「混ぜ返す」の文脈上の意味を把握しておれば、働くことの意味・意義などとはまったく無縁の生活を送っていた息子が、金を稼ぐということ・自分のたつきを自分で整えるということ・人と出会い子を持ち家庭を営むということ・ものを作るということ・そのものが他人と関わりを持つということなどに思いをいたすようになるという流れの中でこの2語が使われているのがわかる。それを考えれば、「ほうける」は「夢中になる」と同じ意味合いを持つこと、補助動詞しては「遊びほうける」以外に使わないこと（No.1-2)、「意識」は「意欲/考え」と同じといった説明（No.1）が不十分なのは明らかである。

20.「芽生える」の説明 44：38

1	T	1	「芽ばえる」。「芽」。木の「メ」の「メ」は、これを書きます。木の「芽」の「芽」ね。
		2	だから、「芽ばえる」ってのは、木から芽が出るのといっしょに、考えが、こう、出てくることですね。

続く20.「芽ばえる」では、「木の『メ』の『メ』は、これを書く」(No.1-1)とあるが、これも明らかに学習者が知っているという前提に立ったものである。「芽」そのものは旧「日本語能力検定試験」の基準[3)]では2級レベルの語彙とされている。実習生がそのことを心得ていたとは思えないが、この場合、たとえ2級語彙であったとしも学習者の日常にはなじみが薄く説明のための語彙として適

切であったか疑問である。少なくとも前後の流れからして突飛であり、たとえば、枝なり土なりの絵とそこから出た芽の絵2枚を描き、これを何という→「芽」という→芽が出てくるのが「芽ばえる」→だから、「芽ばえる」はここでは「考えが生まれる」こと、といった説明のほうが学習者の理解に沿っているといえる。

21.「修業する」の説明 46：50

1	T		「有名店で修業し」。「修業」、「修業」ってわかりますか？　S2さん、「修業」って何ですか？
2	S2		「修業」は…。
3	T	1	修業っていうのはね、その店、行ってね、その店員さんとして働くんです。いろんなこと、教えてもらえるわけね。
		2	お坊さんも、お寺でシュギョウするとかいいますね。ああいうシュギョウ。「行を修める、修める」といいますね。いいですか。

さらに、「修業する」の意味として「その店に行って店員として働く。いろいろなことを教えてもらう」(No.3-1) としているが、ここでの「修業」は、そうしたアルバイトのようにも取れる軽い意味ではなく、トレーニングや訓練の意味、さらにいえば徒弟的な意味合いを持って使われている。そうした訓練を受ける真摯さ・訓練の厳しさがこの説明からは伝わらない。また、お寺の「行を修める」(No.3-2) はここでは何ら必要でないばかりでなく、「修行」であって「修業」ではない。しかも、既知のものとして取り上げている。

22.「店を構える」の説明 47：20

1	T	1	「構える」。「構える」というのは、(体で構えて見せて)、こう、ぐっと構えることですね。
		2	ま、「店を出した」ということですね。

また、「店を構える」では相撲の力士のように足を踏ん張るジェスチャーをして見せている (No.1-1) が、そこから「店を出した」(No.1-2) へ行くにはやはり飛躍がある。これは、「構える」というのは「建てる」の意味とするか、あるいは「構える/建てる」の違いの説明を回避するなら「店を構える」で一つのかたまりで、意味は「店を開く/店を持つ」、としたほうが明解だったろうと思われる。

23.「価値観」の説明 50：30

1	T		「ニートの増加など働く価値観」、「価値観」ってわかりますか？　S3さん、「価値」ってわかります？
2	S3		「価値観」というのは…。お金の考え方。
3	T	1	そうそう、「価値」というのは、いろんなのものの値とかいいますね、これは価値があるとか価値がないとかいますね。
		2	その「観」というのは考え方なのね、だから、価値観とか人生観とかいいますね。人生の考え方は人生観。お金の考え方は価値観とかね。ま、お金だけじゃないですけど。ものの見方もありますけどね。

最後に「価値観」であるが、これは「集団就職から半世紀経って働く価値観がすっかり変わった」、という文脈の中で使われているものである。実習生は「価値」と「観」を分け、「価値」は「いろいろのものの値」(No. 3-1)、「観」は「考え方」(No. 3-2) と説明しようと意図している。確かにものごと一つ一つに下した評価の総体が「価値観」であり、この意図自体は妥当である。

けれども、この問答を子細に見てみると、実習生は、まず「価値観」の意味を問うたのにすぐにそれを「価値」の意味の質問に言い換えている (No. 1)。それに対して S3 は、当初実習生の最初の質問通り「価値観」で答えようとしたものの、実習生の言い換えに沿って「価値」の意味として「お金の考え方」を出したものと考えられる (No. 2)。教材中の「価値観」は労働観・労働意識のことであり、金銭がその一部をなすとしてもここでの価値観は、即、金銭感・金銭感覚ではない。したがって S3 の「お金の考え方」は誤りであるが、それを導いたのは実習生の「価値」の意味の質問であったといえる。

けれども、続く「そうそう、」以下の「価値とはいろいろのものの値」「価値があるとか価値がないとかいう」(No. 3-1) という発話は、その S3 の「お金」に引きずられた実習生の説明である。すなわち、No. 3-1 はお金（＝値打ち）に大きく傾いた説明といえる。それを認め修正したのが、「お金の考え方は価値観とかね。ま、お金だけじゃないですけど。ものの見方もありますけどね。」(No. 3-2) である。後の 2 文の主語と考えられるのは明らかに価値観であり、価値観の意味として実習生が述べたかったのは「ものの見方」であったと思われる。

したがって、「価値」は「いろいろのものの値」・「観」は「考え方」という説明の意図は妥当だとして、たとえば、「働く価値観」というのは働くときのいろいろなものの見方（＝「観」）→仕事のおもしろさとお金とどちらが大切か、仕事と

個人の生活とどちらを優先させるか、企業の社会に対する貢献とは何か……、そうしたことをどう考えるか（=「価値」）→そんないろいろな考え方をまとめて自分は働くということをどう見ているか、それが「価値観」、などといった段階を踏んだ説明をすればよかったのではないかと思われる。

こうして見てみると、④「息子の意志表明」⑤「今日の働く意味」の部分における説明の方法・質は①「集団就職」の説明と大きく異なる。学習者に問いかけて理解につながるようなものを引き出そうとする姿勢が希薄であり、取り上げた語句の説明で用いた手法が粗雑であまり練られていない。

その結果、外国人に対する日本語授業というよりも、たとえていうならば日本人児童生徒を対象にした国語科の授業のような様相を呈しているといえる。

4. 指導が粗雑化していく理由と今後の課題

4-1. 学習者の日本語能力の過大評価

こうした講義調の授業になる理由として考えられるのは、第一に普段あまり外国人に接したことのない実習生が実際の学習者とやり取りしてみてその日本語能力を高く評価しすぎること、第二に、その結果、ことばの細かな説明の必要性を過小評価してしまうことだと考えられる。

これらは裏腹の関係にあるが、①を見ると、たとえばNo. 6/26/30/36/44などに、確かに学習者の発想の鋭さ・日本語の用法の巧みさがうかがわれる。No. 6は、実習生に「就職」の意味を聞かれ「簡単にいえば仕事に就く」と返したものであるが、「簡単にいえば」のことわり表現、「仕事に就く」という慣用句を用いて答えている。No. 26は、「振り返る」を問われて「前のことを、思い出す」と言い換えたものだが、過不足のない的確な答えである。さらに、No. 30は「職業安定所」とは何を指すかと問われて即座に「職業を紹介する場所」と述べたものであるが、これも同様に他に言いようがない応答である。また、No. 36は、実習生が「Vた末に、〜」の意味を説明する際し「いろいろした後で、うまくいった（= よい結果になった）」とした上で、じゃ、うまくいかなかった場合には他のどのような表現を使うかと問うたのに対し、同じく即座に「あげく」と一言発したものであるが、実習生の求めた通りの答えだった[4]と思われる。最後に、No. 44は「陥った」とは何かと問われ「悪い結果になること」と返したもので、

文脈上ほぼ妥当といってよかろう。

ここで取り上げた実習は精読の授業であり、そこではもともと逐語的な解釈に傾きやすい。文字化した①④⑤では「～、わかりますか/知っていますか」で指導する語句・表現を取り出しているのが頻繁に観察される[5)]が、それはこうした授業の性格にも起因するものと考えられる。すなわち、実習生は内容理解と語句の意味・用法を指導の中心課題として据え、後者に関しては教材全体をその対象として一つ一つ精査しその指導法を丹念に練った上で実習に臨んだものと思われる。ところが、以上のような学習者の的を射た素早い応答にじかに接してしまうと、その高い日本語能力に驚き素直に感心してしまう。さらに、ことばを逐語的に取り上げおのおの調べてきた情報を細大漏らさず与える指導法に揺らぎを感じる。

けれども、ここでまず重要なのは日本語能力を理解力と運用力とに分けることであって、理解力に比して運用力は劣ること、運用力を支えるのはやはり語句・表現に関する知識であることを指導の基本に置くべきであろうと思われる。すなわち、実習生が高く評価するのは主に学習者の日本語理解力であって、鋭い辞書の記述的な発話をしたからといってそれが直接的に運用能力の高さを保障するものではない。たとえば、No. 44 で「陥った」の意味を問われて「悪い結果になること」と返したのをほぼ妥当としたが、S1 が、「陥る」は基本的には状態性の語句しかとらない。教材中の「人材不足」は「状態」である。したがって、「陥る＝悪い結果になること」という理解のままでは「失敗/不合格/敗北……に陥った」などと用いてしまう可能性は否定できない。

さらにもう一つの問題点は、揺らぎを感じた結果、指導方法の修正を、逐語的に取り上げはするものの意味と用法の説明は情報を減らしポイントだけにする、同義語や関連する語句にその場で思いを巡らし言及する、ティーチャー・トーク（以下、「TT」）に気を使わない、の三方向に持ってしまう点である。特に１点目は説明の粗雑化・遺漏を誘発しがちで、16.「後を継ぐ」の「継ぐ」の説明欠落（No. 5）、17.「混ぜ返す」の字義通りの解説（No. 1-2）、21.「修業」の説明不足（No. 3-1）、22.「店を構える」のジェスチャー（No. 1-1）、23.「価値観」の錯綜した説明（No. 3-1/3-2）は、こうした姿勢を反映しているものと考えられる。さらに、18.「ほうける」/19.「意識」の他の語の持ち出し（No. 1-2/No. 1-1）、21.「修業」の「修行」への言及（No. 3-2）、20.「芽ばえる」の「木の

芽」への言及（No. 1-2）は、2点目の姿勢が指導上に表れたものといえよう。3点目のTTに関する留意軽減に関しては、「継ぐ」(16.「後を継ぐ」No. 5)、「混ぜてひっくり返す/矛盾」(17.「混ぜ返す」No. 1-2/1-4)、「修行/行を修める」(21.「修業」No. 3-2)、「芽」(20.「芽ばえる」No. 1-1)、「値」(23.「価値観」No. 3-1）が未知語の可能性がある[6]か、あるいは、文脈上、説明の語彙としては不適切ではないかと思われる。さらに、TTにあまり留意しなくなった結果、全体として学習者への問いかけがなくなり一方的な講義調に変化している。

冒頭で述べた通り、こうした姿勢の変化は既習の範囲が明確で把握しやすい初級段階では起こりにくく、新聞記事など生の教材を使った上級段階において特徴的である。上記の実習の場合、半分をやや過ぎた時点（全所要時間75分中の40分を経過したあたり）から顕在化している。逆に、①で明らかにしたように、少なくとも1/3の時点（同、23分あたり）までは観察されていない。すなわち、それまでは精読の授業が成り立っているが、その一方で、次第に実習生が学習者の日本語能力の高さに感心しのみならず圧倒されていったものと思われる。

ちなみに、詳細な分析を加えるには至っていないものの、上級あるいは中級段階で、指導の途中からではなく冒頭からすでに粗雑化しそれが終了に至るまでそのまま継続している実習をしばしば見かけた。こうした実習では本事例と同様に意味と用法の説明の不十分さ・思い付きの言及・TTへの気遣い欠如の3点が顕著に見られたが、逐語的に語句・表現を取り上げようとしない点でさらに特徴的であった。このような指導を行う実習生は、初級段階の実習や見学などを通してその実習に臨むまでにすでに学習者の日本語能力過大評価・語句の説明の必要性への揺らぎが形成され固定化されていたものと考えられる。

4-2. 今後の課題

以上に鑑みて、今後、実習指導教師側に求められる課題は、次のような能力を育成する観点からの養成プログラムの検討である。

この段階で精読的な指導をする実習生に求められるのは、まず、初中級の指導項目を理解把握した上で、教材の中の指導すべき語句・表現を取捨選択する技術・能力である。これは適切なTTを設けるための技術・能力でもある。

次に、指導すべきとした語句・表現の意味及び丸山（2012）のいう接続・構文

の情報[7]を分析する技術・能力である。これは、ことさら粗雑化していく説明における課題というわけではなくごく一般的な授業準備の範疇に入るものであるが、思いつき的に同義語や関連語句に言及しないために重要である。

さらに、個々の学習者の日本語能力を、理解力と運用力に分けて把握する技術・能力である。単にその語句・表現の意味を聞いてその正誤を判断するだけではなく、状況を与えいくつか例文を作らせてみて自らの分析の結果に照らし、適不適を評価・説明する技術である。

こうした技術・能力を育成するプログラムの開発面・運営面からの検討と同時に、精読以外の指導法の取り入れなどを通し、ともすれば日本語の構造的知識偏重の傾向を生んでしまう実習指導のあり方の検討も必要であろうと思われる。

注

1）「働くということ　2005　第3部　何のために6　最終回」(『日本経済新聞』2005年7月9日)

2）以下、文字化した事例で「No.」とあるのは発話番号で、原則として1発話＝1ターンとしたが、内容的に複数の発話を一つの発話にまとめる、あるいは一つの発話を複数の発話に細分化した部分がある。「T/S」とあるのは発話者で、T：実習生・S：学習者である。「S1、S2、S3……」とあるのは異なる個々の学習者を示す。図右上下にある数字は、実習開始時からの経過時間である。
なお、エスノメソドロジー関連の領域では音声や動作の文字化の規則が確立されているが本論では実習生の活動の把握のしやすさに重点を置き、なるべく平明な形で書き表した。

3）2010年より実施されている新日本語能力試験では個々の語句が何級で出題されるかその基準が明らかにされていない。そこで、旧日本語能力試験の基準を採用した。

4）ちなみに、学習者・教師双方を対象にした参考書『どんな時どう使う日本語表現文型辞典』『日本語文法辞典（上級編)』にも、「『とうとう残念な結果になった』と言いたいときに使う」、「*ageru* represents something troubling」とある。

5）①「集団就職の説明」部分
No. 3－2「集団就職」ってわかります？
No. 3－3「集団」、わかります？
No. 7－2「ぐるみ」ってわかりますか？
No. 15－2「人身売買」ってわかりますか？
No. 19－2「発案者」ってわかります？

No. 25-2「振り返る」ってわかります？

No. 27-2「職業安定所」わかりますか？

No. 31-3「末」というのはどういう意味かわかります？

No. 39-9「深刻」って知ってますか？

No. 41-2 わかりますか、「人手不足」。

No. 43-2「陥った」って何ですか。

④「高校時代遊びほうけていた息子の、家業を継ぐ意志の表明」部分

No. 16-1「後を継ぐ」というのはわかります？

No. 18-1「ほうける」というのは、わかります？

No. 21-1「修業」ってわかりますか？

⑤「集団就職時代とは価値観が変わってしまった今日の働く意味の問いかけ」部分

No. 23-1「価値観」ってわかりますか？

6）旧「日本語能力試験」の出題基準によれば、「継ぐ」「修行」「値」−1級、「混ぜる」「ひっくり返す」「矛盾」「芽」−2級、「行」「修める」−非掲載、である。

7）「ここでいう『接続の説明/構文の説明』とは具体的には以下のことを指す。例えば、助力や恩恵があって好ましい結果になったことを表す『おかげで』という表現には、動詞・イ形容詞の普通形、ナ形容詞の語幹及び名詞＋「の」という形がかかる。このことを述べることを『接続の説明』という。一方、『構文の説明』とは、『おかげで』の前後に来る表現がどのような意味合いを持っているかについて述べることをいう。皮肉などを除いたごく一般的な用い方では、『おかげで』の後には『好ましい結果』が来る。そしてその前には、好ましい結果を生じさせた『原因・理由＝助力となったもの・恩恵を与えてくれたもの』が来る。この、両者について述べることを『構文の説明』という。」丸山（2012）

参考文献

Makino Seiichi　2008『日本語文法辞典（上級編）』　The Japan Times

国際交流基金　2004『日本語能力試験　出題基準（改訂版）』　凡人社

友松悦子他　2007『どんな時どう使う　日本語表現文型辞典』　アルク

丸山敬介　2011「日本語教育中上級段階における意味説明の典型的パターン——実習授業の分析結果から——」『同志社女子大学大学院文学研究科紀要』　第11号

2012「日本語教育実習事例研究　特殊な過程を持つ中級段階の語句・表現の説明」『同志社女子大学　総合文化研究所紀要』　第29巻